

令和6年度(2024) 水道事業会計決算概要

1. 概況

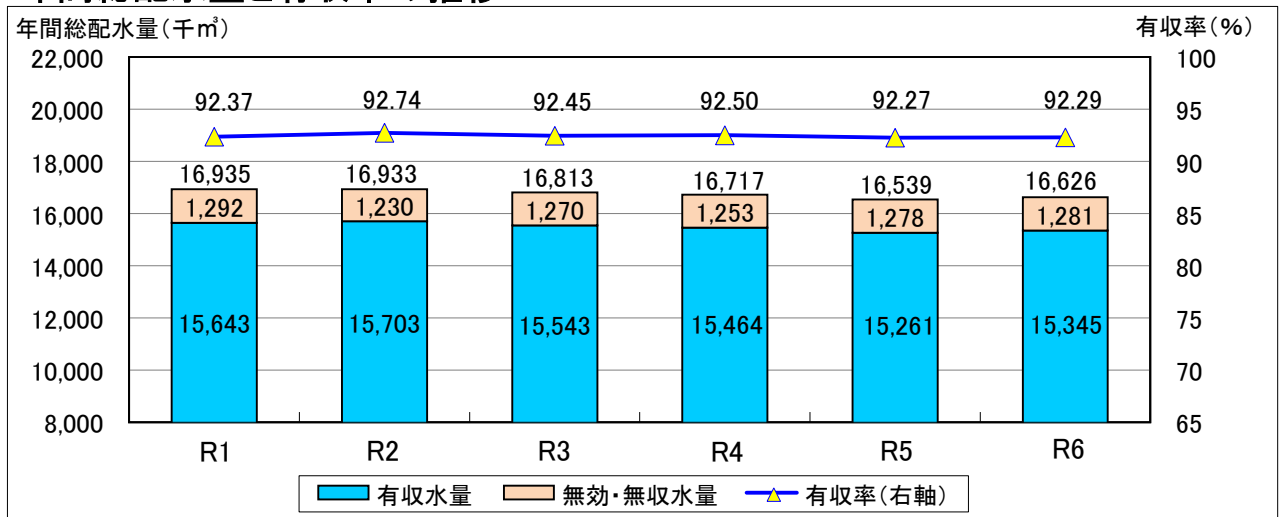
令和6年度は、「安全で安心な水を安定供給し続ける水道」を基本理念とする出雲市水道事業ビジョンに基づき、施設の更新や耐震化等の取組を更に進めました。

業務面では、給水戸数は前年度より増加しましたが、給水人口は前年度より減少しました。また、年間総配水量、年間総有収水量及び一日平均配水量は前年度より増加しました。

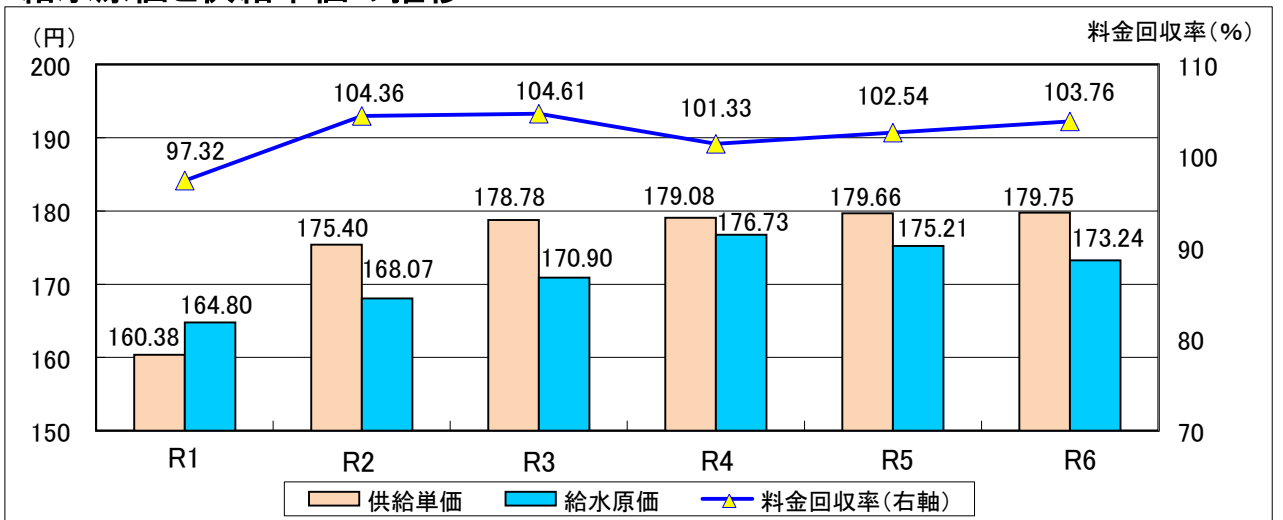
施設面では、老朽化した施設の更新や耐震化を推進し、災害に強い施設の構築を進める一方、安全で安定した水源を確保するため、新規水源(来原系)や出雲・平田地域の水運用に係る連絡施設の整備を進めました。

区 分	令和6年度決算	令和5年度決算	増 減
給 水 戸 数 (戸)	58,555	58,016	539
給 水 人 口 (人)	140,263	140,920	△ 657
年 間 総 配 水 量 (m ³)	16,626,482	16,539,270	87,212
年 間 総 有 収 水 量 (m ³)	15,344,779	15,260,591	84,188
一 日 平 均 配 水 量 (m ³)	45,552	45,189	363

2. 年間総配水量と有収率の推移



3. 給水原価と供給単価の推移



※供給単価 = 給水収益 / 年間総有収水量
 給水原価 = (給水費用 - 長期前受金戻入) / 年間総有収水量
 料金回収率 = (供給単価 / 給水原価) × 100

4. 収益的収入及び支出

(単位:千円 税抜)

区 分	令和6年度 決算	令和5年度 決算	令和4年度 決算	令和6年度決算と 令和5年度決算 との差
水道事業収益	3,349,674	3,331,395	3,386,329	18,279
営業収益	2,826,958	2,806,275	2,834,726	20,683
水道料金	2,758,225	2,741,754	2,769,342	16,471
原因者負担金ほか	68,733	64,521	65,384	4,212
営業外収益	522,666	525,100	551,547	△ 2,434
加入金	65,410	65,310	64,040	100
他会計繰入金	45,166	49,969	61,951	△ 4,803
長期前受金戻入ほか	412,090	409,821	425,556	2,269
特別利益	50	20	56	30
水道事業費用	3,057,416	3,073,117	3,138,977	△ 15,701
営業費用	2,860,162	2,874,852	2,928,381	△ 14,690
職員給与費	264,795	278,341	281,902	△ 13,546
委託料	422,142	393,473	394,194	28,669
動力費	256,171	253,193	274,219	2,978
薬品費	37,294	35,107	28,325	2,187
修繕費	138,788	146,371	151,286	△ 7,583
減価償却費	1,483,345	1,504,937	1,553,052	△ 21,592
資産減耗費	88,731	91,711	77,701	△ 2,980
受水費ほか	168,896	171,719	167,702	△ 2,823
営業外費用	196,612	196,487	210,311	125
支払利息	141,117	146,108	156,257	△ 4,991
その他営業外費用	55,495	50,379	54,054	5,116
特別損失	642	1,778	285	△ 1,136
営業利益	△ 33,204	△ 68,577	△ 93,655	35,373
純利益	292,258	258,278	247,352	33,980

収入は3,349,674千円、支出は3,057,416千円となり、収入支出差引で292,258千円の純利益となりました。

前年度と比較すると、収入は、水道料金の増加などにより、18,279千円の増額となり、支出は、委託料が増加した一方で、減価償却費の減少などにより、15,701千円の減額となりました。

この結果、純利益は前年度より33,980千円の増額となりました。

5. 資本的収入及び支出

(単位:千円 税込)

区 分	令和6年度 決算	令和5年度 決算	令和4年度 決算	令和6年度決算と 令和5年度決算 との差
資本的収入	1,320,292	1,054,481	894,996	265,811
企業債	705,800	500,000	300,000	205,800
国庫支出金	35,669	550	0	35,119
工事負担金	223,248	142,290	132,115	80,958
他会計負担金	7,521	7,391	13,059	130
他会計繰入金	347,817	404,250	449,822	△ 56,433
固定資産売却代金	237	0	0	237
資本的支出	2,789,892	3,106,876	2,415,387	△ 316,984
建設改良費	1,926,875	2,231,714	1,548,605	△ 304,839
拡張事業	227,886	699,498	92,760	△ 471,612
改良事業	1,413,143	1,506,211	1,402,915	△ 93,068
給水施設費	3,421	5,855	4,801	△ 2,434
車両購入費	4,170	5,092	16,858	△ 922
機械器具備品購入費	10,591	14,987	31,271	△ 4,396
土地購入費	267,664	71	0	267,593
(建設改良費の内訳)				
工事請負費	1,423,230	1,958,521	1,266,642	△ 535,291
職員給与費	135,157	137,181	140,250	△ 2,024
委託料ほか	82,642	110,007	88,783	△ 27,365
給水施設費ほか	285,846	26,005	52,930	259,841
企業債償還金	863,017	875,162	866,782	△ 12,145
収支不足額	1,469,600	2,052,395	1,520,391	△ 582,795

収入は1,320,292千円、支出は2,789,892千円となり、収入支出差引で1,469,600千円の収支不足となりました。

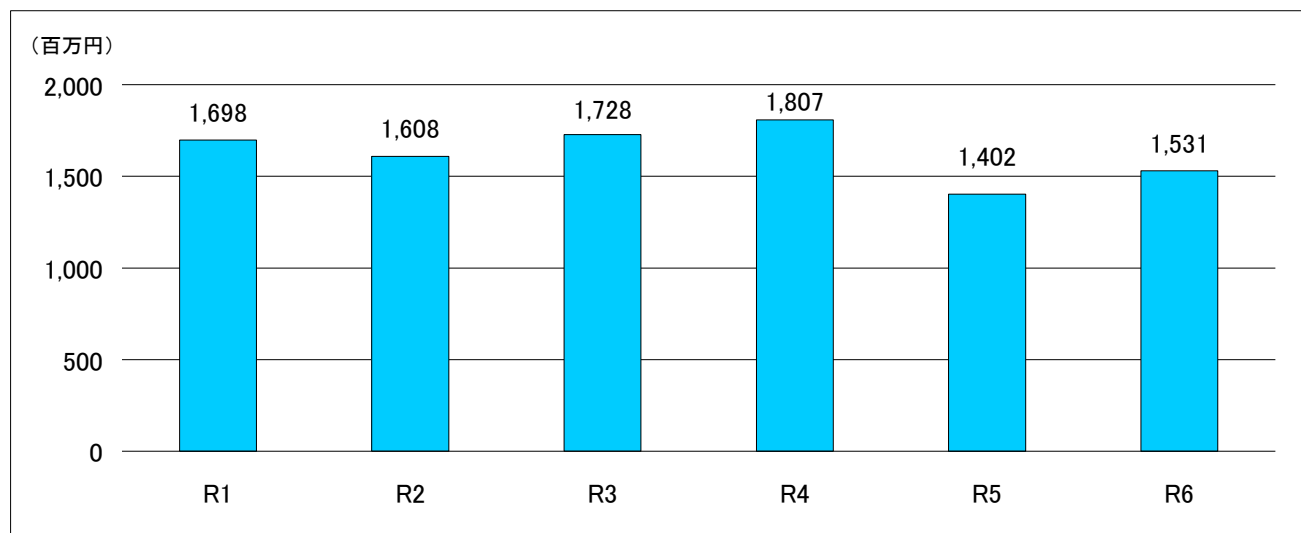
前年度と比較すると、収入は、企業債や工事負担金の増加などにより、265,811千円の増額となりました。支出は、前年度からの繰越事業の減少に伴い工事費が減少したことなどにより、316,984千円の減額となり、この結果、収支不足額は前年度より582,795千円の減額となりました。

なお、不足額は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金及び建設改良積立金で補てんしました。

建設改良工事

主なものとして、「灘分第3水源地取水施設更新工事(その2)」「平田町外平田高校北送・配水管布設工事」など総額1,641,029千円で実施しました。

6. 留保資金年度末残高



令和6年度末の留保資金残高は、資本的収支の収支不足額を補てんした結果、1,531,256千円となりました。

7. 経営指標

(単位: %)							
項 目	算 式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	105.54	110.44	110.17	107.89	108.47	109.58
有形固定資産減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$	41.74	42.34	43.71	45.27	46.37	47.41
管路経年化率	$\frac{\text{法定耐用年数を超過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	26.39	28.97	31.34	33.04	34.09	36.17
管路更新率	$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	0.63	0.67	0.86	0.53	0.51	0.61

経営の健全性を示す経常収支比率は、水道料金の増などにより収益が増加し、減価償却費の減などにより費用が減少したため、前年度比1.11ポイント増の109.58%となり、健全経営の水準とされる100%を上回っています。

資産の老朽度を示す有形固定資産減価償却率は、前年度比1.04ポイント増の47.41%、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度比2.08ポイント増の36.17%となり、施設の老朽化が進んでいます。

当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、支障移転工事の増により、前年度比0.10ポイント増の0.61%となりました。